

事業内容① 都民への普及啓発

資料 4

令和5年10月13日
第1回ACP推進部会資料

事業方針

都民が自分自身の希望するケアについて考えられるようになる

◎自分が希望するケアを考える本人

一人一人が自分の人生について「大切なもの」「よりよく生きる」とは何かを考え、医療や介護について、家族や医療介護従事者と話し合い、自分以外の人に希望を共有しておくことで、自分の望まない医療と介護を避け、自己意思が尊重された医療と介護を受ける準備を進めることができるようになる。

◎本人に関わる支援者以外の家族及び関係者

身近な人、大切な人の医療・ケアについて考え、話し合いに参加できるようになる。

取組の柱

- ・積極的医療だけでなく、治し支える医療について啓発し、終末期の医療・ケアに対するイメージを都民が持てるようにする。
(選択肢の提示)
- ・社会の中で「自分の人生の最終段階」について考え、話すことがポジティブに受け止められる雰囲気醸成
(本人・家族における話し合いの重要性の認識)
- ・自分または家族の医療・ケアについて考え、家族間で話し合う機会の創出
(きっかけづくり)

令和2～4
年度の取組

「わたしの思い手帳」を作成・配布し、都民自身が希望する医療・ケアについて考える機会を創出。
※3年間で11.5万部（本編・書き込み編計23万冊）を配布済

令和5年度の取組
(案)

- 引き続き「わたしの思い手帳」を広く配布（R5配布予定：6万部（本編・書き込み編計12万冊））
- 更なる普及啓発方法の検討**（認知度向上の方策、「わたしの思い手帳」の新たな媒体の検討等）
- 本人に加え、若年層、親が後期高齢者の世代の40～50代、ACPを考える本人の家族や親しい人等に対しACPの考え方を広め、興味関心を持ってもらうため、新たに**リーフレットを作成、配布**
 - ※ R5は3万部を区市町村、各関係団体、病院等に配布予定
 - ※ PDFデータを東京都のHPに掲載し、区市町村、医療機関、介護施設等が自由に印刷して活用できるようにする

更なる普及啓発方法の検討

– ACPの認知度が低い中で (※)、どのように普及を進めていくかが課題

※ R4インターネット福祉保健モニターアンケートでは、ACPについて「知らない」が64.6%、「聞いたことはあるがよく知らない」が21.3%、「よく知っている」が14.1%

ACPが認知されやすくなるには

○ ACPが何の略か分かりづらいとの意見もある (R4インターネット福祉保健モニターアンケートより)

- ・もっと日本語名にしてみると普及がはやいと思う。
- ・まるでBCPのような名前。「わたしの思い手帳」の表紙をみて個人が手に取るのは難しいかなと思う。

→なじみやすい愛称やキャッチコピー等があれば浸透するか？

→“わたしの思い”という言葉キーワードに、東京都のACPを進めていってはどうか？

「わたしの思い手帳（書き込み編）」のデジタル化

- 高齢者以外の世代へのACPの浸透を図るにはどうすればよいか。
- 「わたしの思い手帳（書き込み編）」の記載内容を医療介護従事者と共有しやすくするにはどうすればよいか。

→スマホやタブレット等で自分や家族の思いを書き込めるようにしてはどうか？

→デジタル化にあたり、現行の「わたしの思い手帳（書き込み編）」に新たなコンテンツを加えてみてはどうか？

（「おじいちゃんおばあちゃんへの100の質問」など）

ACPが認知されやすくなるには

【第1回部会での主なご意見】

- 「終活」や「エンディングノート」は言葉自体が分かりやすいが、**ACPは何を指すのか分かりにくい**。
- リーフレット案で「**わたしの思い**」が強調されている点は、**分かりやすい**。
- 普及のためのキーワードを打ち出すと、あまりに見え見えで大きなお世話と思う人もいる。「**これからどう生きたいか**」を後押しするスタンスの方が**良い**のではないか。
- 「ACPの普及」という表現より「**人生のこれからをどう考えるかという時に、こういうツールがありますよ**」という形の方が、無理なく入ってこられる**人が多い**のではないか。
- **入院などをきっかけに、自分のこの先の医療・ケアをどう考えるかの必要性が実感として分かってくるもの**。**言葉の普及ありきではない**のではないか。
- 入院だけでなく**外来患者**にもACPを考えるチャンスがあるとよい。
- **地域医療を意識している医師は、ACPという言葉は関係なく、医療のひとつのパーツとしてACPを行っている**だろう。
- **メディアで取り上げてもらえれば、広く認知も進む**のではないか。

今後の取組の方向性

- 「ACP」という言葉を前面に出さず、「わたしの思い」「これからどう生きたいか」など、都民に関心を持ってもらいやすい言葉を打ち出す広報を検討する。
- 入院時や外来時等に患者が機会を逃さずACPに取り組めるよう、引き続き医療・介護関係者への理解促進を図る。
- メディアでの広報など、効果的な広報手段を検討する。

「わたしの思い出手帳（書き込み編）」のデジタル化

【第1回部会での主なご意見】

- 70代でもスマホなど割と使っているので、ひとつのツールとしてデジタル化はいい考えだと思う。情報共有にも効果的ではないか。
- 団塊世代はICTツールを楽しんでいる人も多い。そこに面白さが加われば、ACPの普及という視点においては良いかもしれない。セキュリティをしっかりと担保したうえでだが、関係者や身内と共有できれば、随時更新作業もできるし、いいのではないか。
- 70代の高齢者に対し40～50代の子が働きかけすることなどが想定できる。若い人に関心を持ってもらうものとして、意味があるのではないか。
- デジタル化したものがあれば、普及に繋がるかなと思う。
- 病院搬送時、スマホの中に思い出が書かれていて確認できるようであれば、情報共有のツールとして役に立ちそうな印象はある。
- 若い人たちへのACPの普及の意味は何か。「この先どうやって生きていくか」「どういう医療やケアを受けながら、それを皆と共有しながら自分のよりよい人生を生きていくか」ということであれば、若い人たちが考えるものが変わってくる。死に直面していないときに死生観みたいなものをアプリで書いていて、その後交通事故に遭ったとき、そのアプリにこう書かれているから～といった危険性も感じる。どう使っていくかが課題。

今後の取組の方向性

- 「ICTリテラシーの高い高齢者」や「高齢者を親にもつ40～50代」に向けたツールを検討する。

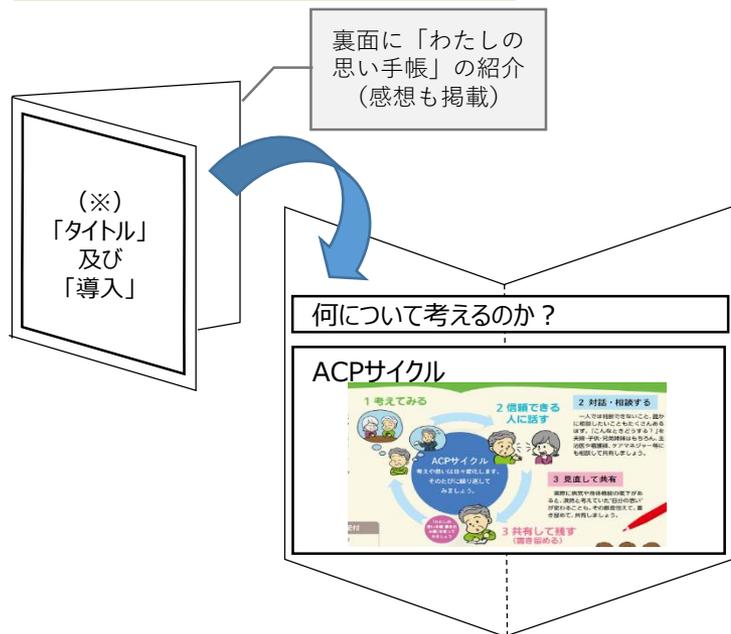
（課題）

- ・ 家族や医療介護関係者との共有方法
- ・ セキュリティ
- ・ 若い世代自身のACPについては、その意味を慎重に考慮する必要

リーフレット案

- **目的**： ACPを知らない層に対しACPの考え方を広め、興味関心を持ってもらうための普及啓発を行う。
- **対象者**： 本人に加え、若年層、親が後期高齢者の世代の40～50代、ACPを考える本人の家族や親しい人等、幅広い層を対象とする。
- **内容**： 上記対象者に手に取ってもらいやすくするため、**ACPを知らない人にも分かりやすいタイトルとする**。また、「**自分の家族**」や「**自分の大切な人**」というキーワードが目立つようにし、そういった人の今後について考えるきっかけとなるものにする。
- **形状**： ①A4二つ折（A5）と、②A4一枚ペラの2パターンを作成（内容は同じ）。
 - ・ PDFを都のHPに掲載し、区市町村、医療機関、介護施設等が好きな方を印刷して活用できるようにする。
 - ・ 今年度は①②両方印刷して、サンプルを配布。

① A4二つ折（A5）



② A4一枚ペラ



(※) 「タイトル」及び「導入」案

(仮) 大切な「わたしの思い」
向き合ってみましょう

生きていくことは
「選択」の連続



- 将来の自分の変化に備えて人生や生きがいを考えましょう
- その上で、医療や介護のことについて準備しておきましょう



あらかじめ(事前) 将来に備えて今からスタートを！

医療・介護だけではなく、日々の暮らしから考えてみよう！

決めることよりも 対話をし計画を立てていく過程が大切！